資料2

中央防災会議

「東南海、南海地震等に関する専門調査会」 (第26回)

中部圏・近畿圏の内陸地震の震度分布等について 一図 表 集一

平成18年12月7日

中央防災会議事務局



東海地震

昭和東南海地震(1944)で歪みが解放されず、安政東海地震(1854)から 152 年間大 地震が発生していないため、相当な歪みが蓄積されていることから、<u>いつ大地震が</u> <u>発生してもおかしくない</u>とみられている。

東南海・南海地震

概ね100~150年の間隔で発生しており、今世紀前半での発生が懸念されている。

図 1.0.1 東海地震と東南海・南海地震



図 1.0.2 西日本の内陸で発生した地震の震央分布 (1650 年以降、深さ 30km 以浅、M6.5 以上)



図 1.0.3 領域 A における地震活動





東南海、南海地震の発
生前後に、内陸の地震
活動が活発化している
と想定される概ねの期
間(約60年間)

図 1.0.4 領域 B における地震活動



図 1.3.1 中部圏及び近畿圏における検討対象地域



活断層 番号	断層名	\mathbf{M}^1	Mw^2
1	伊那谷断層帯	8.0	7.6
2	清内路峠断層帯	7.4	7.0
3	木曽山脈西縁断層帯主部	7.6	7.2
4	佐見断層帯	7.2	6.8
5	白川断層帯	7.3	7.0
6	赤河断層帯	7.1	6.8
7	恵那山−猿投山北断層帯	7.7	7.3
8	猿投−高浜断層帯	7.6	7.2
9	武儀川断層	7.3	6.9
10	加木屋断層帯	7.4	7.1
11	伊勢湾断層帯主部	7.5	7.1
12	白子-野間断層	7.0	6.7
13	養老-桑名-四日市断層帯	7.7	7.3
14	布引山地東縁断層帯東部	7.6	7.3
15	養老山地西縁断層帯	7.0	6.7
16	鈴鹿東縁断層帯	7.6	7.2
17	布引山地東縁断層帯西部	7.4	7.0
18	柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部	7.7	7.3
19	鈴鹿西縁断層帯	7.6	7.2
20	頓宮断層	7.3	7.0
21	名張断層帯	7.3	6.9

活断層 番号	断層名	M^1	M_{w}^{2}
22	大鳥居断層帯	7.1	6.7
23	湖北山地断層帯北西部	7.2	6.8
24	琵琶湖西岸断層帯	7.8	7.4
25	花折断層帯	7.4	7.0
26	奈良盆地東縁断層帯	7.4	7.0
27	京阪奈丘陵撓曲断層帯	7.0	6.7
28	京都西山断層帯	7.5	7.2
29	生駒断層帯	7.5	7.1
30	上町断層帯	7.6	7.2
31	上林川断層	7.2	6.9
32	三峠断層	7.2	6.9
33	山田断層帯主部	7.4	7.0
34	御所谷断層帯	7.2	6.9
35	大阪湾断層帯	7.5	7.1
36	養父断層帯	7.0	6.7
37	山崎断層帯主部	8.0	7.6
38	中央構造線断層帯 (金剛山地東縁-和泉山脈南縁)	7.8	7.4
39	中央構造線断層帯 (紀淡海峡−鳴門海峡)	7.5	7.2

M:マグニチュード 2 Mw:モーメントマグニチュード
伊那谷断層帯は、その地表トレースが検討対象地域を含む領域(黒枠)の外にあるが、この地震の断層 は西傾斜で、断層面が黒枠内の領域に含まれるため、検討対象とした。

図 3.1.1 検討対象とした活断層



応急対策 地震番号	活断層番号	対象地震	\mathbf{M}^{1}	Mw^2
1	8	猿投−高浜断層帯の地震	7.6	7.2
2	—	名古屋市直下M6.9の地震	6.9	6.6
3	10	加木屋断層帯の地震	7.4	7.1
4	13	養老−桑名−四日市断層帯の地震	7.7	7.3
5	14	布引山地東縁断層帯東部の地震	7.6	7.3
6	25	花折断層帯の地震	7.4	7.0
$\overline{\mathcal{I}}$	26	奈良盆地東縁断層帯の地震	7.4	7.0
8	28	京都西山断層帯の地震	7.5	7.2
9	29	生駒断層帯の地震	7.5	7.1
(10)	30	上町断層帯の地震	7.6	7.2
11	—	阪神地域直下M6.9の地震	6.9	6.6
(12)	38	中央構造線断層帯(金剛山地東縁 -和泉山脈南縁)の地震	7.8	7.4
(13)	37	山崎断層帯主部の地震	8.0	7.6

1 M:マグニチュード 2 Mw:モーメントマグニチュード

図 3.1.2 応急対策の検討対象とした地震



NO.	断層名	地震名			
(j)	阿寺断層帯主部	1586年(天正13年)天正地震			
(iii)	濃尾断層帯主部(根尾谷断 層、梅原断層)および温見断 層北西部	1891年(明治24年)濃尾地震			
(iii)	木津川断層帯	1854年(安政元年)伊賀上野地震			
ki)	三方断層帯	1662年(宮立2年)の地震			
	花折断層帯北部	1002年(見天2年)の地展			
\lor	有馬−高槻断層帯	1596年(慶長元年)慶長伏見地震			
(vi)	六甲·淡路島断層帯主部	1995年(平成7年)兵庫県南部地震			
Vii	中央構造線断層帯 (讃岐山脈南縁- 石鎚山脈北縁東部)	(16世紀の地震)			

)

小田切・島崎(2001)及び地震調査委員会「長期評価」等による

図 3.1.3 過去 500 年以内に活動した活断層



図 4.6.1 活断層等による地震の重ね合わせ震度分布

活断層による39地震(経験式によるもの28地震、波形計算によるもの11地震)及び名古屋市直下、阪神地域直下のM6.9の地震の震度の最大値を重ね合わせたもの



図 4.6.2 M6.9 内陸地震の重ね合わせ震度分布

全ての地域の内陸直下で発生する可能性があるとしたM6.9 の地震の震度の最大値を重ね合わせたもの



図 4.6.3 東南海・南海地震の震度分布





図 4.6.5 予防対策用震度分布

活断層等による地震、M6.9内陸地震、東南海・南海地震、及び東海地震の震度の最大値を重ね合わせたもの(図4.6.1~図4.6.4の震度分布の最大値を重ね合わせたもの)



図4.6.6 猿投 高浜断層帯の地震(M7.6)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図 4.6.7 名古屋市直下 M6.9 の地震の震度分布 (左) 断層モデル図 (右)



図 4.6.8 加木屋断層帯の地震(M7.4)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図 4.6.9 養老 - 桑名 - 四日市断層帯の地震(M7.7)の震度分布(左)と断層モデル図(右)



図 4.6.10 布引山地東縁断層帯東部の地震(M7.6)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図4.6.11 花折断層帯の地震(M7.4)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図 4.6.12 奈良盆地東縁断層帯の地震(M7.4)の震度分布(左) 断層モデル図(右)





図 4.6.14 生駒断層帯の地震(M7.5)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図 4.6.15 上町断層帯の地震(M7.6)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図 4.6.16 阪神地域直下 M6.9 の地震の震度分布 (左) 断層モデル図 (右)



図 4.6.17 中央構造線断層帯(金剛山地東縁 - 和泉山脈南縁)の地震(M7.8)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



図 4.6.18 山崎断層帯主部の地震(M8.0)の震度分布(左) 断層モデル図(右)



1 伊那谷断層帯の地震(M8.0)



2 清内路峠断層帯の地震(M7.4)

36.0

36.0



3 木曽山脈西縁断層帯主部の地震(M7.6)



4 佐見断層帯の地震(M7.2)





6 赤河断層帯の地震(M7.1)



図 4.6.19(1) 活断層の地震の震度分布 (経験的手法による計算)



7 恵那山-猿投山北断層帯の地震(M7.7)



9 武儀川断層の地震(M7.3)



11 伊勢湾断層帯主部の地震(M7.5)



12 白子·野間断層の地震(M7.0)





16 鈴鹿東縁断層帯の地震(M7.6)



図 4.6.19(2) 活断層の地震の震度分布 (経験的手法による計算)



17 布引山地東縁断層帯西部(M7.4)



18 柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部の地震(M7.7)



19 鈴鹿西縁断層帯の地震(M7.6)



20 頓宮断層の地震(M7.3)





22 大鳥居断層帯の地震(M7.1)



図 4.6.19(3) 活断層の地震の震度分布 (経験的手法による計算)



23 湖北山地断層帯北西部の地震(M7.2)



24 琵琶湖西岸断層帯の地震(M7.8)



27 京阪奈丘陵撓曲断層帯の地震(M7.0)



31 上林川断層の地震(M7.2)





33 山田断層帯主部の地震(M7.4)



138

図 4.6.19(4) 活断層の地震の震度分布 (経験的手法による計算)

36.0

35.5

35.0





(紀淡海峡-鳴門海峡)(M7.5)

震度7
震度6強
震度6弱
震度5強
震度5弱
震度4
震度3以下

138

図 4.6.19(5) 活断層の地震の震度分布 (経験的手法による計算)

表 5.2.1	大阪湾断層帯の断層モデル

断層モデル	断層部位	緯度	経度	深さ	走向	傾斜	すべり角	長さ	幅	すべり量
		(度)	(度)	(km)	(度)	(度)	(度)	(km)	(km)	(m)
想定モデル	主断層	34.677	135.239	4.2	208.8	60.0	90.0	39.1	12.5	3.6
	浅部断層	34.667	135.262	0.0	208.8	60.0	90.0	39.1	4.9	4.9



図 5.2.1 大阪湾断層帯の地震による津波高さ(平均潮位時)(上)と 東南海・南海地震による津波高さ(平均潮位時)(下)



東南海・南海地震による津波浸水予測

大阪湾断層帯の地震による津波浸水予測



図 5.2.2 大阪湾断層帯の地震による津波浸水予測図(満潮位時)(左)と 東南海・南海地震による津波浸水予測図(満潮位時)(右)

断層モデル	断層部位	緯度	経度	深さ	走向	傾斜	すべり角	長さ	幅	すべり量
		(度)	(度)	(km)	(度)	(度)	(度)	(km)	(km)	(m)
想定モデル	主断層	34.761	136.822	5.2	341.4	60.0	90.0	25.0	14.8	2.7
		34.687	136.975	4.0	300.1	60.0	90.0	16.0	16.2	2.7
	浅部断層	34.752	136.791	0.0	341.4	60.0	90.0	25.0	6.0	3.8
		34.669	136.962	0.0	300.1	60.0	90.0	16.0	4.6	3.8

表 5.2.2 伊勢湾断層帯の断層モデル



図 5.2.3 伊勢湾断層帯の地震による津波高さ(平均潮位時)(上)と 東南海・南海地震による津波高さ(平均潮位時)(下)



伊勢湾断層帯の地震による津波浸水予測



図 5.2.4 伊勢湾断層帯の地震による津波浸水予測図(満潮位時)(左)と 東南海・南海地震による津波浸水予測図(満潮位時)(右)